広 島 県 感 染 症 発 生 動 向 月 報

[広島県感染症予防研究調査会　感染症解析評価部会]
（平成１４年８月解析分）

１　疾患別定点情報

定点把握（週報）四類感染症　　平成14年7月分(7月1日～7月28日：4週間分)

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去５年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去５年平均	発生記号
1	インフルエンザ	0	－	0.00		12	麻疹	23	0.08	0.18	↗
2	咽頭結膜熱	90	0.30	0.40	↗	13	流行性耳下腺炎	334	1.11	1.20	↘
3	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	207	0.69	－	↘	14	急性出血性結膜炎	0	－	0.10	
4	感染性胃腸炎	1,005	3.35	1.89	→	15	流行性角結膜炎	104	1.30	1.55	↗
5	水痘	301	1.00	1.11	↘	16	急性脳炎	0	－	－	
6	手足口病	519	1.73	2.34	↗	17	細菌性髄膜炎	1	0.01	0.01	
7	伝染性紅斑	45	0.15	0.34	↘	18	無菌性髄膜炎	129	1.54	2.31	↑
8	突発性発疹	280	0.93	0.79	→	19	マイコプラズマ肺炎	13	0.15	－	↘
9	百日咳	3	0.01	0.05		20	クラミジア肺炎	0	－	－	
10	風疹	4	0.01	0.13		21	成人麻疹	0	－	－	
11	ヘルパンギーナ	498	1.66	4.72	↘						

※「過去５年平均」：過去５年間の同時期平均（定点当り）

急増減	増減	微増減	横ばい
↑	↗	↗	→
↓	↘	↘	
前月と比較しておおむね1:2以上の増減	前月と比較しておおむね1:1.5～2の増減	前月と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減	殆ど増減なし（発生件数少数のものを含む）

※定点について
　定点情報は，定点把握対象の四類感染症（週報対象 21 疾患，月報対象 7 疾患）について，県内 187 の定点医療機関からの報告を集計して作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD 定点	基幹定点	合計
対象疾患 No.	1	1～13	14，15	22～25	16～21，26～28	
定点数	44	75	20	27	21	187

この情報は，「http://www.pref.hiroshima.jp/fukushi/kenkou/kansen/index.html」のホームページに掲載しています。
全国情報については，「http://idsc.nih.go.jp」に掲載されています。

定点把握（月報）四類感染症　　平成14年7月分（7月1日～7月31日）

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去５年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去５年平均	発生記号
22	性器クラミジア感染症	59	2.19	1.87	↘	26	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染	128	6.10	－	↗
23	性器ヘルペスウイルス感染症	15	0.56	0.65	↘	27	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	34	1.62	－	↘
24	尖圭コンジローム	12	0.44	0.24	↘	28	薬剤耐性緑膿菌感染症	8	0.38	－	
25	淋菌感染症	27	1.00	1.09	↘						

※「過去５年平均」：過去５年間の同時期平均（定点当り）

○ 無菌性髄膜炎　　急増（6月56件⇒7月129件）

2　一類・二類・三類感染症及び全数把握四類感染症発生状況

○ 一類感染症，二類感染症　　発生なし
○ 三類感染症（腸管出血性大腸菌感染症）　　7件発生
（広島地域保健所管内O157 1件，広島市O26 3件，福山市O157 2件，
福山地域保健所管内O157 1件）
○ 全数把握四類感染症　　3件発生 （急性ウイルス性肝炎Ａ型1件，ツツガムシ病1件，梅毒1件）

3　一般情報

○　無菌性髄膜炎
無菌性髄膜炎が，5月の3件から，6月の56件と急増したため，先月号でもお知らせしましたが，更に7月は129件と急増しています。
増加している原因の一つと考えられているエコーウイルス13型が，4月に県内で初めて分離されれて以来，7月23日までに，広島県保健環境センターで53名の患者（0～13才）から分離されています。
糞口感染，飛沫感染で伝播するため，手洗いの励行などが予防対策として重要です。

○　手足口病
手足口病が6月の284件から7月は519件と増加しました。
コクサッキーＡ16型とエンテロウイルス71型の2種類のウイルスが主な病原となり，発熱とのどの痛みで始まり発熱から2日後くらいから舌や口腔粘膜，手，足，臀部などに小水疱が多発します。
エンテロウイルス71型によるものは，ときに無菌性髄膜炎や脳炎などを合併し，重症化することがあり，注意が必要です。
感染者の鼻・のどの排泄物及び糞便との接触か，又は飛沫により感染します。

○　腸管出血性大腸菌（O157など）感染症の予防
7月末現在で，29人の方が腸管出血性大腸菌感染症にかかっています。
昨年同期（49人）と比較して減少しています。
全国では，8月4日現在で，1,594件発生しています。
県内では幸い軽症の方が大部分ですが，埼玉県の老人保健施設では，O157による死亡者が出ており，注意が必要です。

高温多湿の多発時期となっています。食品の保存や調理には十分気をつけましょう！